

< マニュアル訂正連絡票 >

ASP システム保守手引書 V27

[J2K0-5392-01]

2014年12月19日発行

修正箇所(章節項): 7.3

旧記事

7.3 システム稼働中のハードウェア診断

システム稼働中に発生する本体系エラーや入出力装置のエラーに対し、このシステムでは以下の機能をサポートしています。

- ・ ADIOS
- ・ OLTE
- ・ MIH

新記事

7.3 システム稼働中のハードウェア診断

システム稼働中に発生する本体系エラーや入出力装置のエラーに対し、このシステムでは以下の機能をサポートしています。

- ・ ADIOS
- ・ OLTE
- ・ MIH
- ・ 磁気ディスク自動ベリファイ機能

修正箇所(章節項): 7.3.4

旧記事

新記事追加

新記事

7.3.4 磁気ディスク自動ベリファイ機能

(1)機能概要

システムの基本装置である磁気ディスクの安定稼働を図ることを目的として、磁気ディスクの異常兆候を早期に検出するため、自動ベリファイ試験を行います。

自動ベリファイ機能は"ハードウェアログ自動解析機能"が動作したときに起動されます。(デフォルトでは10時に起動されます)

また、本機能はユ - ザジョブ域でバックグラウンドジョブとして動作します。

ジョブ名

- ・ XTMV0000(~V27)
- ・ XTMV000A(V28~)

同時に最大 4 台の磁気ディスクに対して 0.8 秒間隔で 256KB ずつ読み取り試験を実施します。

自動ベリファイ試験で異常を検出するとSCP (System Control Program) からハードウェアログにロギングされ、ハードウェアログ自動解析機能が次に起動された時(例:翌日 10 時)に警告メッセージが出力されます。

(2)診断磁気ディスクの選択

SCP からの磁気ディスク情報を元に最大 4 台の磁気ディスクを選択し、ベリファイ診断を開始します。初回の選択は DISK4400 から装置機番の昇順に選択されます。システムを再起動した場合は前回の続きから実行されます。

- ・対象の磁気ディスクが 4 台以下の場合:すべての磁気ディスクについて常時診断を繰り返します。
- ・対象の磁気ディスクが 5 台以上の場合:一定容量(32MB)の診断が終了すると別の 4 台を選択して診断を継続します。全ての磁気ディスクについて 32MB 診断が終了すると最初のディスクに戻ります。

(3)診断対象

ASP システムに接続されたすべての基本磁気ディスクおよび拡張磁気ディスクを対象とします。

半導体磁気ディスク、RAID ディスクおよび、DMNT 状態の磁気ディスクは対象外です。

磁気ディスクのユ - ザ空間(未使用領域を含む)を対象とします。

(4)診断時間

73GB 磁気ディスク 4 台搭載システムで、全磁気ディスクの自動ベリファイ試験を終了するまでの時間は、24 時間運用で'約 4.1 日'です。

例 1) 7 時 ~ 18 時の稼働装置では、診断時間は 10 時 ~ 18 時の 8 時間です。(ハードウェアログ自動解析機能が 10 時起動の場合)

73GB 磁気ディスク 4 台搭載システムでは'約 12.2 日'です。

例 2) 146GB 磁気ディスク 4 台搭載システムでは 24 時間運用で'約 8.1 日'です。

(5)システム負荷

自動ベリファイを実行した場合のシステム性能への負荷を以下に示します。

自動ベリファイ機能を導入した場合の使用率増加(特定ジョブの性能情報を自動ベリファイ機能の導入前後で採取し比較)

- ・プロセス時間:3.6%
- ・CPU 使用率:1.06%

(6)自動ベリファイ機能の終了

動作している自動ベリファイ機能を終了するには、REFSYS コマンドから自動ベリファイジョブをキャンセルします。

また、翌日以降、自動ベリファイ機能を起動しないようにするには、RASLOG コマンドから自動ベリファイパラメタを"YES" "NO"にします。